

### 第31回 関東地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 令和5年2月2日(木) 14:30～17:00
2. 場 所 さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室
3. 出席委員 清水委員長代理、池田委員、池谷委員、石井委員  
伊藤委員、小笠原委員、玉井委員
4. 議 事 利根川上流ダム群(5ダム)定期報告について  
品木ダム定期報告について
5. 主な意見

#### 1) 利根川上流ダム群(5ダム)定期報告について

- (委員) 事前放流は洪水が来ないと思っているときに流量が増えるということになるが、地元の方に説明をされているのか。
- (委員) ダムの操作がますます複雑になってきており、情報技術が発達しても最終的には人間が判断しないといけないので、そういう高度な訓練がこれから必要になると思うので取り組んで頂きたい。
- (委員) ダムの運用において、カーボンニュートラルの取り組みをもう少し色濃く推し進めても良いのではと感じた。
- (委員) 「今回の評価期間において、利根川本川では渇水は生じなかった」ことについて、ダムの運用実績との関係でもう少し具体的に記述した方が良い。渇水対策をやる時の目標などの記述を少し入れてあげると、どの程度大丈夫だったのかというのがよく分かる。
- (委員) 利根川上流ダム群の補給実績で栗橋の目標流量に対する違いをもう少し丁寧に説明する必要がある。その説明がないと流し過ぎではないかと見えてしまう。
- (委員) 相俣ダムの堰堤改良事業について、工事によりダム湖の水位を下げ湖底が露出している状況はその工事の期間しか見ることができないのでそれを逆手に取った取り組みもある。

(委員) 利根川水系は、いっぱいダムがあると思っている方がいるが、首都圏を抱えているため、水利用もすごく多いので、相当厳しい状況もあるという説明があっても良い。

(委員) 鳥類から陸上昆虫類まで単に種類が書いてあるだけでは、環境変化がどうであったか分からない。それと生態系にかかる国際的な動きも書いてほしい。

## 2) 品木ダム定期報告について

(委員) 利根川上流ダム群と同様に品木ダムでも生物多様性をどう回復させるかということは重大な問題なので、是非そのことを考慮に入れて今後の在り方を検討してもらいたい。

(委員) 施設見学者を対象に行ったアンケートの意見や要望を反映させたところがあるのであれば、声を聞いて実際に対応しているという報告になるので書いた方が良い。

(委員) ホームページで公表している水質結果の備考欄に「地下水の調査地点では水が少なくて本来の採取ができないため、孔内のたまっている水を採取して分析している」と書いてあるが、地下水でないものであれば、これを地下水と言わない方が良い。また窒素の数値が高いこともあり、測定方法も検討した方が良い。